

資源環境経済学特別演習Ⅱ 議事録
2014年度 第7回

報告題名(title) : 広西チワン族自治区における温度インデックス保険展開の可能性について			
報告者(name)	タンポウニ	日時	10月30日 午後3時～
所属分野(labo)	農業経営経済学分野	場所	第2講義室
座長	渥美 敦順	議事録担当者	武居 史弥
出席者			
盛田、米澤、冬木、高篠、石井、鈴木、スチン、宮里、タンポウニ、山口、カライ、ユニクロス、西田、渥美、江守、藤井、町田、青木、黒岩、嶋倉、秀、武居、畠山、チリゲル、ソリゴガ			
報告要旨(abstract)			
<p>天候インデックス保険とは気温、風、降水量、積雪量などの天候にかかわる指標（インデックス）が一定の条件を満たした時に、予め約定した金額の支払いを受けられる金融商品である。伝統的な農業災害保険より利点いろいろがあるため、発展途上国に試行し始まった。</p> <p>広西チワン族自治区中国のサトウキビの主要な生産地であるが、冬に低温によりサトウキビがよく被害される。そのため、広西において温度インデックス保険を試行する可能性があるかどうかを検討したい。柳江県を対象地域に、2004～2014年の間で各月の平均温度と毎年低温によりサトウキビの損失を回帰分析した後、高い相関係数を得るため、低温とサトウキビの損失の間で相関性が高いと言える。</p> <p>その次、アンケート調査を実施し、SPSSでコンジョイント分析を行い、農民にとって効用が最も高いストライク値は0℃、農民の選考にもっとも影響を与えるのはストライク値という二つの結論を得た。</p>			

質疑・応答(Q & A)

渥美：気温によるストライク値を農民が誤解したかもしれないという指摘がありました。ストライク値について取り直しはしないのかという点と補償金の効果が小さいということでしたが、なぜその効果が小さいのかという点についてお聞かせください。

タンボウニ：まず一点目ですが、農民に調査票を配布するときに私が直接配布するのではなく、中国の共済保険の人に配布してもらったため、農民に対して説明が不十分であり、誤解を招いてしまったかもしれません。また、実際に保険を設計する場合は、0から3度の間である2もしくは3度に設定しようと考えています。二点目ですが、たしかに私の設定した三つの補償金では効果が小さかったですが、補償金を上げて800~1000元にしたときの効果について確認する必要があると考えています。

高篠：質問は二点ありまして、一点目はこの研究のオリジナリティはどこにあるのかということです。先行研究では幅広く扱っており、細かくやっていないのでわかりづらいのですが、例えば、マツダさんの研究ですとインドにおける気温インデックス保険を扱っており、こういった研究と何が違い、何が言えるのか教えてください。二点目は、スライド16で行っている予備分析の気温のデータは自分で集めたのか教えてください。

タンボウニ：二点目についてですが、気温データは中国農業大学の先生から、サトウキビの損失は製糖工場から頂きました。スライド14に表示されているデータを使っています。一点目についてですが、マツダさんのインドで行っている気温インデックス保険と本研究の保険の設定では内容が異なり、本研究の方が簡略化しています。例えば、私の設定した保険は設定したストライク値を7日間にわたり、気温が下回った場合に保険が適用され、インドの場合はストライク値を上回った場合に適用されます。また、先行研究との異なる点として、本研究ではコンジョイント分析を行っています。